

IV. 現墓地の拡張の可能性

1. 市街地所在の墓地

市街地に近接して整備された3ヶ所の墓地については、いずれも周囲に住宅地がせまっており、また、他の施設が隣接するなどして拡張すべき敷地の確保が困難な状況にある。

特に近年安定的に供給してきた「つつじが丘霊園」については、北側に宅地開発が行われ、東側は河川、西側は帯広市行政区界（畑）、南側は大規模な都市公園として位置づけられている帯広の森が広がっており拡張は困難な状況にある。

また、このような市街地に隣接した土地の取得は郊外地に較べて高額となり事業費の負担増にもつながり適正な永代使用料の設定にも影響を及ぼし市民が求める適正な永代費で、かつ安定的な墓地の供給を阻害することにもなる。

2. 地域共同墓地（農村地区）

帯広の開拓と共に歩んできた歴史を持った墓地であり、それぞれの墓地がその地域に縁の深い墓地である。このように地縁の人々と深い関わりを持ち、またその時々の墓参のおりには地域住民による墓所の草刈や掃除などを通して開拓の祖を偲び語り合うコミュニティの場を形成している。

このことから地域に密着した墓地であり、また歴史的な色彩を持った特色ある墓地であることを考慮すれば、これらの墓地に新たな霊園を拡張することは地域住民の理解を得ることが難しく、地域の良好なコミュニティに影響を及ぼす恐れがある。したがって、これら地域の良好なコミュニティの保全及び周囲の農業環境の保全の観点からも拡張は困難な状況にある。